

2012年4月3日

開倫塾春期講習会参加の塾生の皆様へ

学校から新年度の教科書を頂いたら・・・  
－自分の得意な科目だけでも教科書を読んでみよう－

開倫塾  
塾長 林 明夫

4月7日(土)のラジオ番組の内容です。皆様の参考にうればと、QandAの形でまとめてみました。ゆっくり読んでみて下さいね。

林 明夫

**Q：学校から新しい教科書を頂いたら、その後はどうすればよいのですか。教えてください。**

A：(林明夫：以下省略)まずは、自分の氏名をしっかりと書き込みましょう。学校名、学年、クラス名も書き込みましょう。

学校の教科書は、皆さんが日本国民として生きていく上で、一生役に立つものです。学校の勉強は、全科目とも、今通っている学校で学ぶ間だけではなく、上級学校に進学したときの基礎となるもので、進学した後も役に立ちます。学校を卒業して仕事に就くときにも、つまり、就職試験にも役立ちます。仕事をするときや社会的な活動をするときも役に立ちます。はっきり言って、死ぬまで一生役に立つのが学校の勉強です。その学校での勉強の内容が示されているのが学校の教科書ですので、学校の教科書だけは一生涯処分することなく、大切に、大切に保存しておいて下さいね。そこで大切なのが、この教科書は自分のものだと、自分の氏名を自分の文字で丁寧にしっかりと教科書に書いておくことです。

日本では、学校の教科書は国民の税金を用いて無償で配付されますが、世界の多くの国では、その学年の教科書は貸し出されるもので、次の学年になったら返還して次の人に貸し出されますので、自分の氏名を書いてはならないようです。そのような国では、一生にわたって学校の教科書を自分のものとして持ち続けることはできません。

それだけでも、日本国民は素晴らしい教育を受けていると言えると思います。

**Q：教科書に自分の氏名を書いた後はどうしたらよいのですか。**

A：少しだけでもよいですから、また、あまりお行儀がよくありませんが、寝転びながらでもよいですから、すべての科目の教科書を前のほうからゆっくりと読んでみることをお勧めします。写真や挿絵を見たり、「はじめに」という著者の先生方のページを読んだり、目次をゆっくりと読んだりすることをお勧めします。これから1年間、この科目でどんなことを勉強するのか想像しながら、ゆっくり、ゆっくりと読んでみましょう。

私が大好きなのは、教科書を書いた先生方の「はじめに」と「目次」です。先生方は、なぜ、何の目的でこの教科書を書いたのだろう、何を私たちに伝えたいのだろうと思いながら「はじめに」を読むと、とても勉強になります。また、目次には、この1年間に学ぶ内容が体系立って示されています。ああ、これからは、こんなことを1年かけて勉強するのかとよくわかります。

私も勉強が足りないので、いろいろなところに随分と出掛けて、様々な勉強会に何十年も出ていますが、教科書を書く先生方は皆、立派な方ばかりです。どなたも、日本国民の将来を思い、

皆様の一生役に立つ内容を時間をおしむことなく一文字一文字、一行一行心を込めて執筆なされています。そのエキスが詰まったのが、「はじめに」と「目次」です。しっかりと読んで下さいね。

**Q：教科書に自分の氏名を書き、初めのほうにある「写真」や「はじめに」、「目次」を読んだ後はどうすればよいのですか。**

A：気に入った科目だけでも OK ですから、教科書の本文を一気にどんどん読んでみることです。

自分のことをお話することをお許し頂ければ、私は新しい教科書が来るのがうれしくて、学校から教科書を頂くとすぐに氏名を書き、自分の好きな科目からどんどん読みました。国語や社会、理科の教科書は、とにかくもらった日から何日かで、いつも読み終わっていました。英語も、全部ではないにしても半分ぐらいまでは、声を出して読んでいました。数学は、どの学年の教科書も初めのところには前の学年の復習ややさしい計算が出ていて、やさしいものが多かったので、ノートに問題をどんどん解いていきました。

音楽や美術、保健・体育、技術・家庭も読めばわかるようなところは小説や普通の本を読むように、とにかく教科書をゴールデンウィークが終わる頃までどんどん読んでいました。

読めば結構面白いのが教科書であることを小さい頃から知っていましたので、教科書が学校から配られる日はワクワク、ドキドキの大好きな日でした。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：よく考えれば、この勉強の仕方は少し大雑把なやり方ですが「予習」の一つと言えます。これからの 1 年間にどのような教科書でどんなことを学ぶのかを実感するには、よい方法だと思います。その科目に対する興味や関心がとても出てきますので、あまり嫌いな科目はありませんでした。NHK のラジオや TV の英語のテキストも、手に入ったその日から声に出して 1 か月読んでいましたので、割合と長続きしましたよ。

以上

－ 2012 年 2 月 7 日記 －